


# 会議記録

会議名	第3回 矢板市政策研究会議
日時	平成 26年 3月 11日 18時 ～ 20時
場所	市役所 3階 第一委員会室
参加者	矢板市政策研究会議委員及びコーディネーター（別添名簿のとおり） 矢板市政策課題庁内研究プロジェクトチーム研究員（別添名簿のとおり） 市 遠藤市長、横塚秘書政策班長、秘書政策班手塚副主幹
<b>1. 開会（副会長）</b>	
開会及び資料の確認	
<b>2. あいさつ</b>	
<b>【市長】</b>	
	皆さん、こんばんは。3月に入っても連日厳しい寒さが続いております。また本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。今日は、3年前に東日本大震災が起こった日でありまして、私達も2時46分に黙とうをささげ、ご冥福をお祈りしたところです。また、市内の中学校の卒業式でもあり、特別な日でもありました。
	さて、今日は、政策研究会議の皆さんとプロジェクトチーム（以下「PT」）のメンバーとの意見交換会であります。実は3月議会に議員の中から「PTの取り組み」や「政策研究会議の進捗状況」について質問が出されました。議会でも市街地の活性化については、非常に興味を持っておりますので、現在の状況を説明し、ご理解をいただいたところであります。今日は、PTが現地踏査をした結果やこれからの取り組みについてご説明し、委員の皆さんからご意見ご指導をいただくということでこの会議を開催いたしましたので、どうぞご忌憚のない意見をお願いいたします。この取り組みは、そんなに急いでやろうと思っているわけではありません。じっくり取り組みながら、何とか結果を出したい。その点をご配慮いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
<b>【会長】</b>	
	私も3年前、被災者の1人として、3日間ほど矢板中学校の体育館にお世話になりました。当時、震災当日は仕事からの帰り道、信号も動いておらず真っ暗で、うちに帰れば屋根の瓦が落ち、中は足の踏み場もないほどの状態でした。初めての経験でした。翌日食べ物を求めてスーパーに行ったら棚が空っぽで、これは大変な状態になったと感じました。
	本日、そのような日に政策研究会議ということで、皆さんからご意見をいただくわけですが、これから矢板市を担っていく若い職員の方々の「矢板市をこうしていくんだ」という熱い思いを聞くことができると、楽しみにして来ました。後々PTの皆さんからご報告いただいた件に関して、委員の皆様と闊達な意見交換が出来ればよいと思います。よろしくお願いいたします。

○本日の会議の趣旨説明（班長）

現在までPTが行った調査研究（会議9回、現地踏査、先進地視察等）の内容を、政策研究会議の委員の皆様にご報告し、それについてのお考えやご意見をいただき、今後の調査研究に反映（軌道修正）するというところで、今回の会議を開催しました。

### 3. 会議事項（進行：会長）

#### （1）PT調査研究の進捗状況について

資料1～3に基づき、PTリーダー及び研究員が説明。



#### （2）意見交換

○委員 報告された内容の中で、現状については否定的な話が多かった。現状での「矢板の良さ」について、委員の皆さんはどう考えているか。否定的なことからは始まるとなかなか改善には向かわない。教育の場面においては、どんな生徒でも、どこかに良いところがあり、それを見つけ、そこからスタートして、現状が悪い中でも、少しでも良いところを改善していこうという視点が大切である。

○委員 この現状をどういう風にするのか、具体的にどんな将来像を描いているのかが見えないので、話を聞いてもイメージできないのが残念。分析してみないと分からない点も多いと思うが、分析しながらも一つ「夢」のようなものがあつた方が良いと思う。また、「矢板は元々どんなまちなのか？」を考えることも必要。元からある矢板の視点、良いところなどは、中心市街地を考える上でも活かせると思う。自分の実家（福島県の温泉街）の地域では、客が来ないと「どうしたら良いか？」を皆で考え、必要に応じて行政に必要な支援を頼むこともあつた。商店街の方にアンケートを取る前に、誰かいないのかなという思いである。

●PT 今回、現地を歩いてみて、否定的なところばかり見えてしまった。しかし、このエリアには、数えると商店が250店舗もあり驚いた。まだまだやれる価値はあると感じた。空き地・空家が多いという現状を、「伸びしろがある、やり方次第では伸びる要素がある。」と逆転の発想でプラスに考えてやっていこうと思っている。

○委員 道を歩いている人が少ないという現状ではあるが、6区商店会も補助金でアナウンスのスピーカーをつけたり、色々と以前にもそれなりのことはやっていた。先ほどの説明で、「ギャップを埋める」という言葉が出てきたが、「ギャップ」とは何か。その中にヒントがあるのでは？矢板の駅から郵便局まではある程度道幅があるが、そこから入ると狭い道が多い。車で移動するのも大変な所もある。6区には何が必要だったか。昔アーケードの話もあつたが、現実化しないでここまで来た。我々商業者は、マーケットを追いかけている。今の車社会の中において、人が集まるところとは、車が楽に駐車できることが必須条件である。

また、現在商工会も駅東で新たに起業家支援などもやっている。確かに、起業したい人自体はいるが、起業することはリスクを背負うということであり、人がいないところで商売は成り立たない。「良い商品が売れば人は寄ってくる」とは言うが、そこまで開き直りリスクを取れるか、というところが一番難しい。現状認識がどうだったのか、それを説明してほしい。

●PT 「ギャップ」は何か？確かに重要なところである。我々が考える「ギャップ」が何かという認識があって、さらにアンケートを行うことによりわかる「ギャップ」もある。今後メンバーの中でも検討して、共通認識していかなければならない。

○委員 この地区の現状を、皆さん方が率直にどう見ていたか？元々まちなかに住んでいる人と片岡や泉地区に住んでいる人との認識は違うと思う。若い人たちが、駅前をどう認識していたか？

●PT 空家が増えてしまったのは、実際に間口が狭く、駐車場がない、土地も高いので郊外の土地が安いところについてしまったことも理由にあると考えている。しかし、一番は不動産として動かない、地主が動かそうとしない点である。ここに店を出したいとか住みたいと思っても、借地や売買上の問題があると感じている。また、実際図面を調べてみて、思ったよりそれぞれ個人の所有が多いことに気がついた。公図が混乱していることもあるが、大地主の問題だけではないと考えている。

○委員 この地域は、火災予防地域に入る。用途地域ということもあり、リフォームなどを行う際にかなり制約が伴う。

○委員 この対象地域は、再開発はしないという前提で取り組んでいるので、郊外型のよくなまちづくりはせず、現状の中で限られた資源で、この政策は考えていくという理解でよろしいか。

●PT 市街地の再開発をしたら良いという意見があることは分かっているが、再開発をしたから活性化につながるか、という点必ずしもそうでないと思う。再開発は活性化のための一つの手段であって、最終的にはそこに住む人たちがどういう風にそのまちを盛り上げていくかにかかっている。今の市の財政状況を見ても、長期的に考えていかなければならない課題だと思っているので、現状では、今の資源を活かしてできるものに絞っていきたい。

○委員 否定的なものが多い現状で、肯定的なものから取り組んでいく必要がある。まちの構造自体は変わらないので、現状にあるものを活かさないと、このプロジェクトは上手くいかない。矢板市は人口35000人弱の小さなまちだが、市内に高校が3校もある。こんなところは珍しく、矢板の明るい展望の一つだと考えている。高校生がこれだけいるのだから、高校生にとって魅力ある店舗がもっとあったら良い。北海道のある事例では、現状の店舗を使い高校生が店に入りやすい仕組みを作った。その町では「読書」を一つのキーワードにまちづくりをしており、図書館の代わりに、店主が自分の好きな本を自由に買い置き、そこに自治体が補助を出すという仕組みだ。

<p>同じようにはいかないかもしれないが、矢板も何か仕組みを作らないと、人を集めることは難しい。矢板の良さを売りにできる仕掛けができると良いと思う。</p>
<p>また、月極駐車場の分析（借主、形態等）をしてみてはどうか。それを自分たちの考える活性化の中で活かすことができるのか、また、別の活用法があるのか。現状を変えるためには、そういうところから始めなければならない。</p>
<p>●PT 「矢板の良さ」を考えた時、駅前通りに多くの高校生が歩いているということは分かっていたが、現時点でその認識は薄れていた。重要なことだと再認識している。</p>
<p>今の若者は車を所有しない方が多かったり、公共交通機関を使う方も増えている。駅から近いという利点を活かし、今ある人の流れをこの地区に呼び込めれば、まだ可能性があると思う。</p>
<p>○委員 キーパーソンの発掘ということについて、魅力ある男・女が矢板にいれば、その方に託すのが一番早い。真岡も鹿沼も、魅力あるキーパーソンがいて、そこに人が寄ってきて、いい流れができています。きっと矢板にもいるはず。発掘できたら良い。</p>
<p>市街地の元気アップとは、空家が店舗になり、市外や県外から訪れる人が増えることだけではないと思う。</p>
<p>また、年寄りはずごい知恵を持っているが、そのノウハウは、後世になかなか伝わらない。長年培った勘、技術や知恵を、矢板の若者が引き継がなければならないと考えるが、市としても本に残すなど知識の伝授は必要である。</p>
<p>○委員 若者が、この矢板に何を期待しているか？そんなことがヒントになると思う。</p>
<p>今の20～30代の若者の遊びや楽しみとは何か。昔と今では価値観が全く違うので、若者の皆さんが、1番楽しいと思うことを考え、それを募集して、お店を探してやったらどうか。食べ物、着るもの、遊べる場所など、若者が興味を持ちそうな店を考えていけば良いかもしれない。また、高校生が往来するところに気軽に寄れる場所（店）がないのは本当に残念。そんな点に着眼して考えていけば、人を集め、まちの中を明るくする方策も見つかると思う。</p>
<p>●PT 鹿沼や真岡の取り組みを見て、上手くやっているなと感じた。家主にとっても、古い空家は解体費用がかかるところ、貸り手がいれば家賃収入が入ってくるというメリットがある。鹿沼では、どうせ壊そうと思っていた解体費用の一部を、まちづくりのためにということで、店の改修資金として提供してくれた事例もあった。我々がまだ行政の目でしか見ていないところを、これから商工会や商店会など色々な方と関わり、その中からくすぶっている火に空気を入れたい。その上で、若い世代がやりたいことを見つけていきたいと考えている。</p>
<p>○委員 このモデル地区には、20年前には居酒屋やラーメン屋等多くの飲食店があり、賑わっていた。この地域の活性化を考える上で、やはり今の人の意識や商店街のやる気などを知ることは必要。アンケート調査について、配布は手渡しということだが、回収方法は？また、氏名を記入するという形式で本音の部分が聞けるのか？</p>

●PT	回収も直接伺い、記入された内容で気になる点を確認したり、書きづらい所について聞いてみたりと、とことん相対した形の中で進めていく。
○委員	アンケートを実施する際に、市職員が直接訪問するというのは、相手の方にとってもアピールにもなる。訪問して直接話をすることにより、意外と本音が聞き出せるので、そこにヒントが隠れているかも。
○会長	先行地視察の資料をアンケートに添付し、事例として示したらどうか？
●PT	アンケートの一番の目的は、住民の信頼感を得ること。今までのやり方ではだめ。行政として住民との合意形成を得るプロセスの中で、このアンケートの手法から始めたかと思っていた。アンケートに先進地の成功事例を示すということも考えたが、イメージ（期待感）が先行する心配もあったので、今回は、皆さんが率直に今思っていることを聞くことから始めたい。
○会長	今後団塊の世代など年寄りが増えていく。我々高齢者は経験も知見もある。これから若い世代や子育て世代の方に対して何か援助が必要とあれば、お手伝いできると思う。例えば、高齢者などの買い物難民や医者に行けない人の送迎など、介護保険でかかる費用をボランティアなどでカバーできれば相当の費用対効果が得られる。また、人と人とのつながりができ、まちが活性化していく。元気な高齢者の活用もこのプランの中で考えていければよい。そこを市役所でコーディネートするなど、そんな観点も大事だと感じている。
○コーディネーター	私は皆さんと少し違う観点なのですが、このモデル地区は駅に近いという点が圧倒的な魅力だと思っている。幹線道路から、少し入ると路地があり、非常に面白い地区である。その面白さをどのように活かしていくのかという視点が重要。しかし、最後はやはり人。誰が担っていくのか。これまでの視点は20代～30代の若者中心に考えていたが、それに高校生や中学生、元気な高齢者など、このエリアでその方たちが活躍できるストーリー展開を考えることが重要。例えば、石巻市にはNP0が運営している高校生カフェがあったり、千葉県柏市では、プチ就労（例：高齢者が週に数時間、保育所で働くことにより、保育士の仕事が充実するだけでなく、高齢の方の活躍の場にもなり少額だが収入も得られる）という仕組みがある。いろんな年代の方が、このエリアをステージに、これまでなかったことをやるということで、全国にない新しいモデルができる。ただし、前提として、新しい事を始めるにあたり地域の方の理解を得ることは必要である。
●PT	※「中心市街地の元気アップ」というテーマについて、PTの考え方を説明。 「元気アップとは何か？」を考えた時、すごく悩み迷った。まず、まちを作るのは人である。そこで、「まちの元気アップ」を「人の元気アップ」と置き換えて考えてみた。人が元気でいられるためには、まずは体力、そして楽しみ、そして不安や不満を解消することが必要であり、市街地にも、楽しさ、まちとしての体力、この地区が抱える問題点の解消が必要。やはり、楽しさが一番の活力である。年代ごとに感じる楽しさは異な

り、元気になる秘訣ややり方は沢山あると思うが、それをどんどん展開していき、この地区が元気になるようにしていきたい。そのために、この地区に再び人の流れを呼び込み、ここに住む人たちが楽しみ、結果として元気に暮らせるような場所にしていきたいと考えている。

### (3) その他

○市長総括 長時間にわたり、大変ありがとうございました。私も「ギャップ」ということを非常に気にしておりまして、実はあの地域に住んでいる方たちが、本当に今後住み続けたり商売を続けていく気持ちがあるかということに疑問を持っていた。それを我々もしっかり把握していかなければならない。確かに行政がやれば、区画整理をやって公団混乱地域を解消して、土地の流動化が進むようにすることでなんとかなると思うが、それには膨大な費用がかかる。そういう状況には今ありませんので、「この限られたエリアの中で可能なものは何か」という視点で、PTの若い職員にアイデアを出してもらおうと思っている。本日の皆様からのお話は非常に参考になりましたし、考えさせられました。今後、まだまだ検討して参りますので、どうぞご指導ご助言をお願いいたします。

## 4. 閉 会

### 矢板市政策研究会議委員

NO	氏 名	役職・職業等	備考
1	坪山 和郎	とちぎ未来づくり財団副理事長 (行政)	会長
2	荒井 隆市	荒井プロパン代表取締役 (商工)	
3	五味田 謙一	矢板中央高等学校校長 (教育)	
4	笹沼 貞美	会社役員 (商工)	
5	佐藤 喜久男	矢板市認定農業者会長 (農業)	
6	鈴木 れい子	塩谷町非常勤教育職員 (教育)	
7	松平 宣秀	寺山観音寺副住職・児童委員 (子育て)	
8	江面 晃一	矢板市総合政策課長 (行政)	副会長

### コーディネーター

NO	氏名	役職・職業等
1	陣内 雄次	宇都宮大学教育学部 教授

矢板市政策課題庁内研究プロジェクトチーム

NO	氏名	所属課	備考
1	齋藤厚夫	放射能汚染対策課	リーダー
2	齋藤隆之	総合政策課	サブリーダー
3	水沼宏朗	総務課	
4	中村哲也	生活環境課	
5	長島弘	商工林業観光課	サブリーダー
6	大谷貴宏	都市建設課 市街地整備班	
7	石下清香	生涯学習課	
8	高瀬智明	生涯学習課	
9	星有美	矢板公民館	
10	高橋和寛	選管・監査事務局	